令和５年度 菊池寛記念館 文芸講座

日　　時 ： 令和５年６月～令和６年３月までの指定日（全１０回） 午後１時３０分～３時

会場・参加費 ： サンクリスタル高松 ３階 第１集会室　無 料／申込み不要（当日、直接会場へ）先着６０名

11/25、3/9 サンクリスタル高松３階　視聴覚ホール　無 料／申込み不要（当日、直接会場へ）先着２００

名　主 催 ： 高松市・菊池寛顕彰会

※問い合わせ先：菊池寛記念館（電話０８７－８６１－４５０２／高松市昭和町一丁目２番２０号 サンクリスタル高松３階）

回	開催日	講　師 （敬称略）	「テーマ」	講演の概要
1	令和 5 年 6/3（土）	ノートルダム清心女子大学文学部 日本語日本文学科教授、博士(文学) 東城　敏毅	万葉集』大伴旅人の「讃酒歌」 ― 大宰府文学圏の世界―	『万葉集』巻三には、当時、大宰府の長官であった大伴旅人の「讃酒歌」(「酒を讃むる歌」) 十三首が収録されている。本講演は、大宰府における大伴旅人の境遇と山上憶良との交流、ならびに中国文学をもとにした新たな和歌世界に焦点を当て、当該歌群の和歌史における意義を追究する。
2	7/15（土）	香川県立ミュージアム主任専門職員 高木　理光	香川県と映画 ー明治から平成までの映画史１００年ー	香川県で映画が上映されたのはいつなのか？香川県で初の映画館はどこか？明治から大正、昭和初期の時代を中心に、香川県内の映画に関する当時の様子を考察していく。
3	8/19（土）	香川大学教育学部准教授 北原　圭一郎	『紫式部日記』と『源氏物語』	紫式部がどのような人生を送った人なのか、本当に彼女一人で源氏物語を書いたのか、現存する資料は少なく、よく分からないことが多い。 しかし、紫式部が宮中での出仕生活を記した日記には、確かに源氏物語と重なる叙述があるように思う。 この講座では、紫式部日記の記事を取り上げ、源氏物語とのつながりを探っていきたい。
4	9/2（土）	就実短期大学教授 加藤　美奈子	（予定）薄田泣菫	（予定）薄田泣菫関連
5	10/7（土）	香川大学教育学部教授渡邊　史郎	戦時下の「反近代論」と戦後の エンターテインメント	日本近代の文化は、常に西洋＝近代との葛藤のなかにあった。第二次世界大戦の頃は「反近代的」な動きが顕著だったが、それは戦争が終わっても終わらなかった。今回は、戦後のエンターテインメントにおけるその動きを観察してみたい。
6	11/25（土）	歌人、作家 東　直子	海のめぐりの現代短歌	古今東西の現代短歌の中から、海にまつわる短歌を抽出し、その楽しさ、おもしろさについて解説する。現代短歌の奥深さや、短歌ブームと呼ばれている現代短歌の現状についても言及する。
7	12/9（土）	香川大学教育学部特命教授 佐藤　明宏	二十四の瞳 ー小説と映画と映画村と岬の分教場から、教育と戦争と人生とを考えるー	壺井栄の『二十四の瞳』は、1952 年に発表され、1954 年に映画化された。1987 年に再映画化され、そのときのオープンセットが観光施設『二十四の瞳映画村』として公開されている。この香川県屈指の言語文化遺産『二十四の瞳』から学べることを紹介する。

8	令和 6年 1/20 （土）	株式会社半空 代表取締役社長 半空文学賞 主宰 岡田　陽介	市井の人が参加できる 文芸活動とは。 体験型文学賞の 広がりと歩み。	文学の裾野を広げ、多くの人に楽しんでもらうために開催している〈半空文学賞〉は、毎年テーマを変えて原稿を募集している。親しみを持っていたり身近に感じている。テーマだから、文章を書いてみようと思い立つ人と、読んでみようと思う人は、日常の中に物語や愛着を感じるようになる。主宰から見たその広がり方と歩み。
9	2/3 （土）	香川大学教育学部准教授 古橋　紀宏	鄭玄の学問	後漢時代の鄭玄（127-200）は、漢代の儒学を集大成した学者である。鄭玄の学説の特質について、香川大学教育学部の藤川正数（1915-1998）・間嶋潤一（1950-2012）両教授は著名な業績を挙げられた。両教授の業績を踏まえ、鄭玄の学問について考察する。
10	3/9 （土）	高知大学人文社会科学部教授 田鎖　数馬	フェミニズム作家としての 菊池寛 ―「新女人粧」を読む	菊池寛は、男性本位社会を批判する、フェミニズム小説と呼ぶべき作品をしばしば執筆している。今回の講演では、そのような作品のうち、「新女人粧」を主として取り上げる。女主人公の生き方や女性読者の反応を踏まえ、作品の時代的な意味を考える。